



Japan  
**CareTech**  
Association

「持続可能な介護」の実現へ



**Caretech communication**

2022年9月号



## 【協会代表挨拶】

### ケアテック通信初発刊において

一般社団法人日本ケアテック協会の代表理事の鹿野です。2020年11月の介護の日に弊協会を設立以降、微力ではありますが、会員様向けのイベント実施や、業界団体としての要望書を自民党ケアテック活用推進議員連盟への提出等の活動を行って参りました。設立時より発刊の構想がございました本通信の第1号を本日無事に皆様にお届けできることを嬉しく思っております。『ケアテック通信』という名前の通り、介護業界のトピックスだけでなく、弊協会にはこの業界で著名なメンバーも集まっており、各理事からのコラムも今後の介護業界の行方を見通して頂くのに有用であると考えます。また今後は更に会員様向けのイベントも充実させていきたいと考えますので、内容をご確認頂き、ぜひ積極的なご参加をお願い申し上げます。皆様からのご意見・ご要望もお待ちしております。まだまだ微力な協会ではございますが、引き続きのご支援の程何卒宜しくお願いを申し上げます。

## 【活動報告】

1.第4回自民党ケアテック活用推進議員連盟が6月10日（金）衆議院第一議員会館で開催され、一般社団法人日本介護支援専門員協会の柴口会長とともにケアテック協会から議連へ要望書を提出いたしました。要望の提出、資料作成のご協力ありがとうございました。

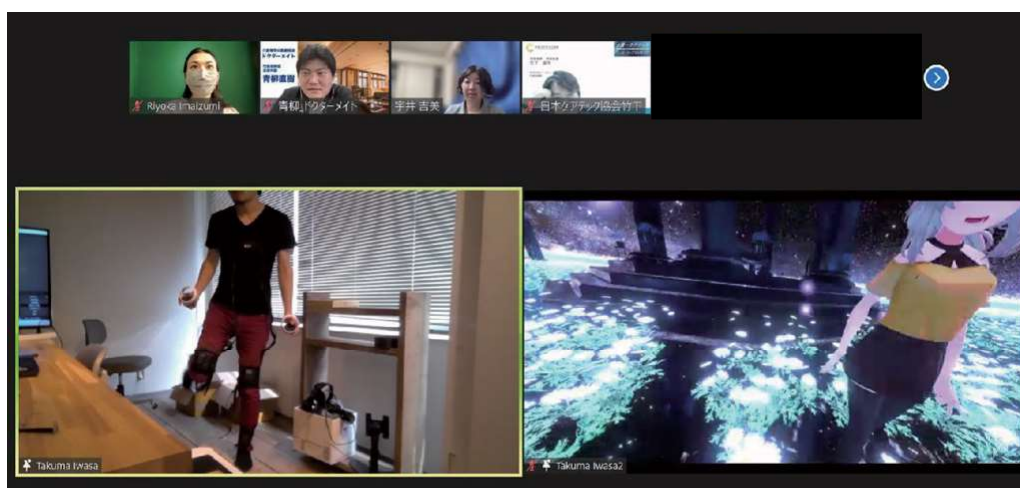
「要望内容」 ※詳細は次頁参照

- ・スマート地域包括ケアの実現
- ・介護DX改革（①業務プロセス改革、②ケアテック認証制度創設、③ケアテック人材育成スキーム新設）
- ・制度改革/報酬改定に向けた具体提案

## 2.イベント実施

### 7月7日オンラインイベント開催

「介護とテックの議論をする前にテックを体験してみる」をテーマに、Shiftall岩佐CEOによるメタ空間のリアルタイム体験と共に介護業界ですでに導入されているテック製品を紹介。



## 第4回自民党ケアテック活用推進議員連盟での要望内容

### ○スマート地域包括ケアの実現

スマート地域共生社会の実現に向けて、地域単位で高齢者であってもスマートに不便なく過ごせるよう、ケアテックやデジタルガバメント、地域通貨等の様々なデジタルツールを活用し、専門職のケアやサービスが行き届く指定特区をつくり、大胆なサービスの実証/展開を行うことを提案。

### ○介護DX改革として3つの提案

#### 1)業務プロセス改革

a. 在宅系介護事業者の業務標準化・効率化支援施策の充実

#### 2)ケアテック認証制度(仮)の創設

a. 第三者機関による認証によるシステム等の標準化

b. 認証された機器における補助金適用/保険適用

#### 3)ケアテック人材の育成

a. ケアテックに知見が深く、業務改革をけん引する資格創設による人材の醸成

b. 当該資格保有者に対する報酬上の評価

○その他、サブスクリプション型課金サービス(企業が提供する介護DXサービス)に関する定常的な補助スキームなど、制度改革/報酬改定に向けた具体案等

その他、要望の詳細(全文)については、以下をご参照ください。



## フィールドボード事業にて経済産業省補助事業の受託 令和4年度「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域DX促進活動支援事業）」について

本年度のフィールドボード事業として、経済産業省 令和4年度「地域新成長産業創出促進事業費補助金（地域DX促進活動支援事業）」の補助事業者として採択をいただきました。当事業は、地域企業のDXを強力に推進し生産性を向上させることを目的とし、経済産業省が産学官金の関係者が一体となった支援コミュニティの整備や、必要な経営・デジタルに関する専門的知見やノウハウを補完するための各種活動を補助する事業です。当協会の他にも、全国各地、様々なエリアや産業でDX化支援に向けた活動が行われます。

当協会では、茨城県・神奈川県・千葉県・静岡県を中心としたエリアにて、自治体をはじめ、かながわ福祉サービス協議会などの地域に根付いて介護を支援している団体や、金融機関、研究機関との連携による支援コミュニティを整備し、20の介護事業所のDX化に向けた支援を実施致します。また、昨年度に続いて介護×ケアテックのニーズ・シーズマッチングイベントを実施し、介護事業所とケアテックベンダーのマッチングを図ります。更には介護事業所の生産性向上を適切に示す介護DX導入効果の測定および測定指標の標準化に関する研究事業や、セミナー・人材育成支援なども実施致します。



昨年度のマッチングイベントの様子



介護事業所のDX化に向けた伴走支援概要

## 理事コラム①



コニカミノルタQOLソリューションズ株式会社  
代表取締役社長 三浦 雅範

### 画像テクノロジーで進化する介護現場

---

介護施設における介護スタッフの業務負担軽減を目的として画像を活用する介護業務支援システムが市場に広く受け入れられるようになってきた。画像で利用者の状態を見て判断することでスタッフの業務量削減や心理的負担の軽減に繋がる。さらに、画像情報に対してAI処理による高度な認識・判断を加えることで新たな価値を提供することが可能となってきた。

当社が提供する介護業務支援システム「HitomeQケアサポート」は、居室の天井に設置した行動分析センサにより24時間365日利用者の居室内での行動を画像処理により全てを数値化し、各行動を指標化して蓄積している。指標の例としては、居室内での行動量や歩行速度、ふらつきといった身体機能に関わる行動の数値化を直上から居室全体を俯瞰的且つ連続的に観察することで、生活空間における小さな変化を捉えることが可能である。このように、人による定点観測では成し得なかった観察がICTを活用することで可能となり、これからの介護はICTを業務の中核に据えて変革を進めていく事が重要である。これまでの介護施設へのICT導入は、現行業務をデジタル化することに留まっており、効率的な業務改善に終始していた。当社は、ICTを中核に据えた新たな働き方を事業者と一緒に作り上げようとしている。事前に事業者へ課題のヒアリングを実施し、課題解決に向けては、ICTによりデジタル化された業務構造を事業者と共有しながら一緒に打ち手を考え、事業者の働き方が変わるまで伴走することでICTを軸にした働き方変革を支援する。

このICTの変革がもたらす効果として介護の質を上げることが期待できる。一例として、画像解析による利用者の姿勢推移データの活用を紹介したい。当社の「HitomeQケアサポート」では、臥床状態から起き上がり、端座、移乗、移動といった一連の動作から利用者のADLを客観的に評価することができる。これらの行動は、普段の介護スタッフやリハビリスタッフの観察からは評価が難しい個々の利用者が「行っている」残存能力そのものであると言える。従来のADL評価は、専門職による主観評価であり、利用者のできない行動に着目した「介護の手間」を評価するものであり、利用者の自立支援を行う上では適切な評価と言い難い。残存能力を客観的に数値で評価し、利用者の自立度に合わせたケアを実施する、即ち個別ケアが可能となる。このように、データを活用して介護の質を上げることで利用者の自立度が向上し、結果として業務負担が軽減され、介護施設全体の効率化が実現すると考える。ICT導入により従来業務をデジタル化する事に留まらず、介護の質向上に向けてICTを中核に据えて抜本的に業務を見直すこと、すなわちデジタルトランスフォーメーションを推進することが深刻化する介護人材不足と高齢者の介護度悪化の解決策となる。我々が目指すべき介護現場とは、テクノロジーとヒューマンコラボレーションによる創造性豊かな現場作りであり、介護する側とされる側の双方を共に幸せにする世界を実現していきたい。

## 理事コラム②



産業技術総合研究所 招聘研究員  
株式会社ノバケア 代表取締役 岡本茂雄

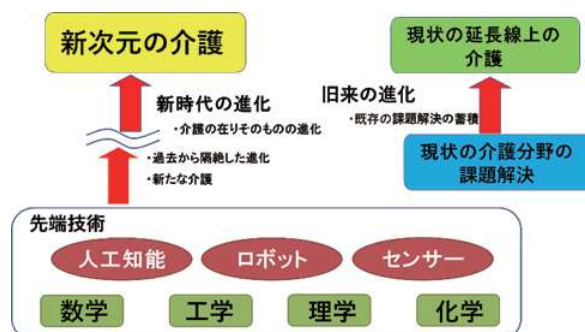
### 介護の真の進化を目指した先端技術

LIFEの真の目的は何なのか。介護は、今、大きな進化のチャンスにあります。LIFEとは加算の道具ではなく、科学的な介護を生み出すためのデータ蓄積の仕組みであり、LIFEにデータを入れるだけではすぐに優れた介護が出来るわけではありません。どうやったらLIFEに記録できるかではなく、蓄積されたデータで何を生み出すかが介護業界には求められています。また、先端技術は、帳票を簡便に作成するための道具ではなく、介護そのものを進化させるためにこそ使うべきものです。高齢者のQOLや自立が圧倒的に進む介護を生み出すために先端技術はあるのです。

「介護は、数値にならないものが大事」、「介護は個別性が大事」と言われることがあります。私の所属する産業技術総合研究所では、数値にならないと思われる感情、満足度、施設の雰囲気などを定量化する技術が開発されつつあります。個別性が大事だと言うとき、ご高齢者の個別性に応じた介護が出来ているのかを、自己満足ではなく把握する方法を考えることは当然で

す。先端技術を使えば、数値化できないと思っていたものが数値で表され、真に個別性の高い介護が出来ているかが評価できます。介護の進化を考えると、人工知能やロボットなどの先端技術、数学や工学の進化にもアンテナを張ることが求められる時代だと考えます。その時に生まれる介護は、世代を隔した新次元の介護と呼べるものになります。

もう一点、重要なのは進化において先端技術が主役ではなく、介護そのものが主役であるということです。そのためには、人工知能やロボットを作る側が、もっと介護を学ぶべきです。調査資料などを読んでニーズが分かったと思わず、是非、介護施設に二泊三日泊まり込むことを進めます。一方、介護福祉士、看護師などの方々も、是非このような技術開発に参加されることをお勧めします。私の所属するノバケアと言う会社には、介護分野に30年以上いた人間、看護師、PT、またAI分野の天才やロボット分野の研究者もいます。そのメンバーが、高齢者の幸せとは何か、自立と自律を実現する介護サービスとは何か、それに必要なAIとはどんなものかを議論しています。今まさに、合意形成の過程を大いに進化させ、最適リハ・プランと予後予測を可能としたAIが出来てきました。ここで重要なのはご高齢者と専門職はどのように合意形成をし、どのようにサービスを提供するかの過程を徹底的に分析し、それを進化させるにはどんなAIが良いかを考えることです。我々は自社商品にこだわることなく、介護自体を進化を目指すケアテック事業者(ライバルでも構わない)、また介護現場に、協力し真の介護の進化を目指したいと考えます。



## 【当協会からのご案内】

### 第9回 医療・介護・薬局 Week 大阪

通称：メディカル ジャパン 大阪

### 第5回 医療・介護・薬局 Week 東京

通称：メディカル ジャパン 東京

【医療・介護・薬局Week】通称：メディカルジャパン  
主催：RX Japan 株式会社(旧社名：リード エグジビション ジャパン)

本展は、病院設備、医療機器、クリニック向け製品、介護製品、看護用品、薬局支援システム、感染対策など医療・介護分野に必要な製品など最新の病院・介護・クリニック・薬局・感染対策に関わる製品・サービスが一堂に出展！10月東京（幕張メッセ）、1月大阪（インテックス大阪）の年2回開催されます。  
<https://www.medical-jpn.jp/hub/ja-jp.html>

第5回 医療・介護・薬局 Week【東京】  
会期：2022年10月12日[水]～14日[金]  
会場：幕張メッセ

第9回 医療・介護・薬局 Week【大阪】  
会期：2023年1月18日[水]～20日[金]  
会場：インテックス大阪

【Careforjapan2023 次世代介護ラボ】  
主催：インフォーマ マーケッツ ジャパン株式会社

Care Show Japan（ケアショー・ジャパン）は、「介護」「医療」「予防・未病」「ヘルステック」をテーマに行われる展示会です。高齢者食・介護食の専門展として国内最大規模の「メディケアフーズ展」や「介護産業展」「未病産業展（共催：神奈川県・未病産業研究会）」などの6つの展示に加え、本年度は「次世代介護ラボ」として、介護・福祉分野におけるICT、AI・ロボットなどの最先端テクノロジーを活用した最新製品や導入事例等を紹介し、介護現場における利用拡大、社会実装を促進します。  
<https://www.care-show.com/carelabo/>

会期：2023年2月8日（水）・9日（木）・10日（金）10:00-17:00  
会場：東京ビッグサイト 西ホール  
ケアテック協会会員特典

当協会会員企業は通常39万円（税別）/1小間のところを、会員価格34万円（税別）/1小間にて出展ができます。ご希望される場合は当協会事務局までお問い合わせください。

※小間には壁面のみが含まれており、設備・備品は別途有料にてお申込が必要です。

### 会長講演のご案内

「第9回 介護&看護 EXPO 特別講演」

「AIを活用した業務効率化・現場の負担軽減」

■ 講演日時：2023年1月19日(木) 12:30～13:30

■ 講演会場：インテックス大阪

<https://www.medical-jpn.jp/osaka/ja-jp/about/ns.html>  
講演の詳細は後日情報掲載の予定です。

# Care Show Japan

医療・介護・薬局 Week 大阪 通称：メディカル ジャパン 大阪 内

### 第9回 介護&看護 EXPO 大阪

通称：ナーシングケア 大阪



## ケアテック企業会員様（法人A/B会員）

株式会社aba/株式会社ウェルモ/株式会社エス・エム・エス/エヌ・デーソフトウェア株式会社/  
株式会社大塚商会/株式会社オリエントテクノロジー/株式会社グッドツリー/  
コニカミノルタQOLソリューションズ株式会社/株式会社ZIPCARE/Chatwork株式会社/  
株式会社ティービーアイ/テクノホライズン株式会社/ドクターメイト株式会社/  
株式会社トライト/株式会社日本コンピュータコンサルタント/パナソニック株式会社/  
株式会社ブライト・ヴィー/株式会社やさしい手/ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社/  
株式会社LIFULL senior/株式会社ワイズマン

## 介護事業等会員様(法人C会員)

株式会社池田介護研究所/イツモスマイル株式会社/株式会社グッドライフケアホールディングス/  
株式会社ケアクラフトマン/社会福祉法人善光会/社会福祉法人ときわ会/医療法人社団博慈会/  
HITOWAケアサービス株式会社株式会社ポラリス/株式会社リールステージ

## 賛助会員様

株式会社ベストパーソン



## 株式会社グッドツリー



### ケアプランデータ連携システム「ケアぽす」のお知らせです♪

#### ▼ケアぽすとは

居宅と介護事業所の間で、異なる介護ソフトを使用している場合、計画書や利用票などがデータで送受信できるサービスです。厚労省の標準仕様なら、宛先を自動判別、複数事業所へ一括送信ができます。サポート込みで、完全無料で使えます！詳しくは、ケアぽす公式HPをご覧ください

⇒ <https://carepost.jp/>

\*9月22日(木) 第4回目ケアぽす講習会を開催いたします。

「ケアぽす」についての概要から、始めるために必要な事前準備や条件、登録手順についてご説明いたします。参加を希望される方は、こちらのフォームからお申し込み下さい

⇒ <https://forms.gle/vsPksyRCw8qWfqGv6>

## トライトグループ



**国際モダン  
ホスピタル  
ショウ2022**  
INTERNATIONAL MODERN HOSPITAL SHOW 2022

2022年7月 July  
**13 14 15**  
10:00~17:00

東京ビッグサイト  
東展示棟  
東2・3ホール

健康・医療・福祉の未来をひらく  
～人と地域でつむぐ命の輝き～

国際モダンホスピタルショウ2022 主催 一般社団法人日本病院会 / 一般社団法人日本経営協会 特別協力 公社社団法人日本看護協会 <https://noma-hs.jp>

トライトグループ・AIケアラボが「国際モダンホスピタルショウ2022」  
新設コーナーの来場協力をしました。

主に医療福祉業界において人材紹介・人材派遣事業を行うトライトグループは、2022年7月13日～15日の3日間、東京ビッグサイトにて開催された「国際モダンホスピタルショウ2022」にて、今回より新設された介護・福祉・リハビリDXコーナーの出展・集客・セミナー開催に協力しました。トライトグループが2021年より運営しているAIケアラボにて取材をした企業への出展機会提供、九州工業大学ケアXDXセンター創設者の井上創造先生、えいよう未来株式会社代表の長井佳代氏を迎えたセミナー開催、介護職員・介護事業所管理職の方への集客を行いました。国際モダンホスピタルショウへの来場者数は昨年を超える結果となり、トライトグループが協力した新設コーナーも成功裏に終わりました。